

HUB-IBARAKI ART PROJECT 2020 開催のご案内

このたび、茨木市とアートを活用したまちづくり推進事業『HUB-IBARAKI ART』実行委員会は、
3月28日（土）より7月12日（日）までの期間、
「HUB-IBARAKI ART PROJECT 2020」を開催いたします。

期間中は、市内各所で10以上のプログラムを実施して、まちなかで繰り広げる「アートプロジェクト」として、新たなアートの体験のかたちを提案します。

つきましては、本プロジェクトの周知にご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、プロジェクトの進行およびプログラムの開催に変更が生じる場合がございます。

本件に関するお問い合わせ、取材依頼：

茨木市市民文化振興課 [担当：永原、山上]

567-8505 大阪府茨木市駅前3丁目8-13

茨木市役所南館8階

Tel：072-620-1810

E-mail：bunkashinkou@city.ibaraki.lg.jp

開催概要

プロジェクト実施・開催期間 |

2020年3月28日（土）－7月12日（日）

作家 | 永井 寿郎

発表作品 | 《FIXATIF 2020－特別な場所》

ドローイングパフォーマンス：市内各所約10か所で実施予定

写真作品：ソシオー1 茨木ビル2階 ショーウィンドウ

テーマ |

パブリックとプライベートの境界を考える

プロジェクト内容 | 茨木市内全域を対象とした作品制作・発表、トーク、市民交流の取り組みなど10以上のプログラムを実施予定

チーフディレクター | 山中 俊広（インディペンデント・キュレーター）

ディレクター | 山本 正大（少年企画）

事務局 | 茨木市文化振興課

主催 | 茨木市、アートを活用したまちづくり推進事業『HUB-IBARAKI ART』実行委員会

公式サイト | <https://www.hub-ibaraki-art.com/>

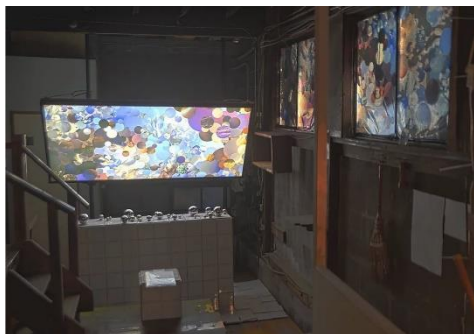
選定作家

永井 寿郎 Toshiro Nagai



1973年鹿児島県生まれ。1999年東京藝術大学美術学部芸術学科卒業。現在東京都在住。

学生時代より写真家として活動をおこない、途中10数年間のブランクを経て、2016年より活動を再開。近年の主な発表に「スパイラル・インターナショナル・クリエイターズ・フェスティバル（SICF）」（SPIRAL／東京、2016、17年）、グループ展「脱衣所で芸術家と文通する日」（HITAKIBA／東京、2017年）



私は、世界全体を写真に納める事を目標に活動しています。
とはいえ、どれだけ大きなカメラにどれだけ広角なレンズを付けたとしても、世界の全てを写し切る事は出来ないでしょう。
そのため、「世界を構成する普遍的な要素」をカメラで抽出することによって、それが実現できないかを日々考えています。

今回のHUB-IBARAKIでは、この世界の断片のような要素を求めて、茨木市全域を対象に人が住まう場所を巡ります。

撮影の対象とするのは、いわゆる「名所」とされるような場所ではなく、「人の営み」と「時間」が積み重なって、目に見えない微細な変化を含有している「まちの風景」です。

どの場所も一見ありふれた風景なので、その普遍的な要素に触れ、抽出することは簡単ではありません。そのため、各々の場所を形成する要素を「直になぞる」という原始的な方法で確かめ、かたちにしていきます。

「ありふれた場所であっても、全ては特別な場所である」という事に気づいていただけるように努めて参ります。
どうぞご協力よろしくお願いします。

永井 寿郎

今年度のプロジェクトのテーマ

永井寿郎 作品《FIXATIF 2020－特別な場所》

『HUB-IBARAKI ART PROJECT 2020』は、東京在住の写真家、永井 寿郎（Toshiro Nagai, b.1973）を選定作家に、初めて活動範囲を市内全域に広げて開催します。

今年のプロジェクトの軸となる、永井の作品《FIXATIF 2020－特別な場所》は、市内各所の屋外空間でおこなう短時間のドローイングパフォーマンスと、その痕跡を捉える写真作品の発表、これら2つの形態で成り立つものです。チョークで路上や地面に絵や線を描く行為は、子どもの頃に多くの人を経験する遊びの一つです。家の側の空き地や道などをプライベートな空間として捉え、近隣に住む子どもたちが、一時的に占有を許されておこなう遊びと言えるでしょう。そんな慣れ親しんだ遊びの仕組みを、永井は場所に寄り添うことによりアートの表現手法として取り入れ、さらに本プロジェクトでは社会の仕組みを考察する手法として展開します。



「パブリック」と「プライベート」の境界を考える

昨年末より市内全域を対象に現地リサーチをおこない、ドローイングパフォーマンスの実施候補となる場所を、永井の選択基準や運営側の提案により約20か所に絞りました。今後、場所ごとに順次進める交渉・許可手続を経て、期間中約10か所での実施を目指します。

ドローイングパフォーマンスの実施候補となる場所には、市街地や住宅地、公有地や私有地など様々な土地が含まれています。実施のための交渉や手続が公と民それぞれの範囲にあることから、実施するパフォーマンスの形態や規模も一つ一つ異なるものになると想定します。さらに、この実施に向けたプロセスと、市内に展開していく束の間の描きの行為、そしてカメラがとらえるまちの景色と行為の痕跡は、まちにおける「パブリック」と「プライベート」の概念や範囲のグラデーションを顕在化することになるでしょう。

茨木のまちを広く行き来しながら、土地そのものをなぞり、消し、またなぞることを繰り返していく今年のプロジェクトから、普段の生活から見えにくい「パブリック」と「プライベート」の境界やその差異に、意識を傾ける機会にいただければ幸いです。

メインプログラム

◇ 永井寿郎《FIXATIF 2020－特別な場所》 作品発表

☆ ドローイングパフォーマンス

日時：3月中旬～6月下旬（予定）

会場：茨木市内各所 約10か所で実施予定

永井が市内各所に赴き、地面にチョークを使って描いていく、1回あたり数時間程度の作品制作のパフォーマンスです。市内の屋外空間や道路など、期間中約10か所で実施を予定しています。

原則的に永井個人による制作形態となりますが、一部の会場では鑑賞者参加型での制作も予定しています。また会場の環境や新型コロナウイルス感染症拡大防止への配慮により、近隣住民のみの限定公開、または非公開となる場合があります。



※ アーカイブ情報の発信

ソシオ-1茨木ビル 2階ショーウィンドウは、昨年と同様にインフォメーションコーナーの役割を担い、フライヤーの設置とプロジェクトの活動情報の随時更新をおこないます。ホームページ／SNSでも一般公開するパフォーマンスの開催情報、実施済みの報告を随時発信します。

☆ 写真作品展示（3/28～7/12）

日時：3月28日（土）～7月12日（日）

9:00～20:00 [会期中無休]

会場：ソシオ-1 茨木ビル 2Fショーウィンドウ
（阪急茨木市駅西口直結）

永井の作品の最終形態となるドローイングパフォーマンスの写真を、期間中随時追加・更新して発表します。



永井寿郎作品《FIXATIF 2020ー特別な場所》 制作イメージ

3月15日（土）
ドローイングパフォーマンス実施風景



作品発表実施に向けたこれまでの動き



1. ドローイングパフォーマンス実施候補場所のリサーチ【実施済】

…昨年12月から1月にかけて市内全域を巡り、永井が発表場所に関心を持った場所を約100か所リストアップ（マッピング）。



2. 実施候補場所の絞り込み【実施済】

…リストアップ分から、作家側・運営側双方の希望や、開催地のバランスを考慮して、実施最終候補場所として約10数か所に絞り込む。

——以下は現在進行中、プロジェクト期間中も継続して対応——

3. 開催に向けた交渉・手続

…場所ごとに、所有者または管理者へ実施計画案（ドローイングの範囲、警備体制など）を提出し、使用許可・承認を得る。（実施不可も想定）

4. 実施決定

…開催形態の調整（実施日時、参加型、地元公開のみなど）。近隣住民への事前案内。

関連プログラム

※ 新型コロナウイルス感染症対策の動向により、
開催の内容・形式が変更になる場合があります。

◇ バトンタッチトーク 冬木遼太郎×永井寿郎

日時：4月上旬

※当初一般公開で開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から観客無しの収録形式でおこないます。トークの記録は、後日公式サイト／SNSに公開します。

…本プロジェクト恒例のオープニング企画として、昨年の発表作家の冬木遼太郎氏をお招きし、今年の発表作家の永井と対談をおこないます。合わせて、今年のプロジェクト概要の説明もおこないます。

◇ 茨木芸術座談会 2020

日時：6月13日（土）17:00～19:30

会場：茨木市役所南館8階 市民ふれあいサロン

…一昨年から毎年開催している座談会では、茨木市内で芸術文化活動に関わっている方々との対話・交流を目的とし、参加者同士が芸術・文化について多様な価値観や考え方を共有する機会とします。市内市外、関連活動従事の有無に関わらず、関心のある方はどなたでもご参加いただけます。

◇ クロージングトーク

日時：7月12日（日）15:00～17:00

会場：茨木市男女共生センターローズWAM

ゲスト：平田剛志氏（美術批評、HUB-IBARAKI審査員）

…本プロジェクト作家公募の審査員で美術批評家の平田剛志氏をお招きして、今年のプロジェクトの動きを振り返ります。今年のプロジェクトの成果と課題を見直し、これからのHUB-IBARAKI、アート、茨木市について考えます。



「HUB-IBARAKI ART PROJECT」について

「HUB-IBARAKI ART PROJECT（ハブ・イバラキ・アートプロジェクト）」は、「継続的なアート事業によるまちづくり」をテーマに、大阪府茨木市で実施するアートプロジェクトです。

茨木市に暮らす人々が、アート作品・アーティストとの交流を通して、アートの表現の豊かさ、美しさ、探求心に触れて、それぞれの日常へ還元していく機会を創出することを目指しています。毎年公募で1名のアーティストを選定し、作品だけで完結することなく、アーティスト自身も積極的にまちに関わり、まちの環境を継続的に育てていくことのできる作品・展示の発表をおこなっています。

本プロジェクトのルーツは2011年度の「茨木市彫刻設置事業」までさかのぼり、ヤノベケンジ《サン・チャイルド》（2011年度）、名和晃平《Trans-Ren（Bump, White）》（2012年度）が茨木市内に恒久設置されました。2013年度から『HUB-IBARAKI ART COMPETITION』として現在の作家公募と長期間展示の形式にリニューアルし、2015年度からは作家を1名に絞って実施しています。さらに2016年度からは『HUB-IBARAKI ART PROJECT』に名称を変更して、アートによる茨木市のまちへの積極的な関わりを推奨するアートプロジェクト色を強めた企画を実践しています。



〔2016-17年度〕

作家 | 中島 麦 Mugi Nakajima

作品名 | 《WM/ウム》

会場 | 茨木市生涯学習センターきらめき、茨木市役所、ほか8会場

活動概要 | 6か月の会期中茨木市の公共施設8か所に、恒久設置を前提とした絵画・壁画作品を発表。一部の会場では現地での公開制作のほか、5つの関連企画を実施。



〔2017-18年度〕

作家 | 稲垣 元則 Motonori Inagaki

作品名 | 《The Light》

会場 | サワラギヤ

活動概要 | 民間の店舗を展示会場に、店舗正面のガラス面に4種類の映像作品を6か月の会期中断続的に発表。夜間のみ作品公開とすると共に、4つの関連企画を実施。



〔2018-19年度〕

作家 | 冬木 遼太郎 Ryotaro Fuyuki

作品名 | 《突然の風景》

会場 | 茨木市中央公園北グラウンド

活動概要 | 車とクラクションの音で音楽を奏でる、1日限りの屋外での作品発表をメインに、制作のプロセス、周知活動、発表後の振り返りなど、6か月の会期中12の関連企画を実施。